



緊急速報 — 2012年11月28日水曜日

国際公務労連新リーダーにローザ・パヴァネリ氏

質の高い公共サービスの世界的擁護者としてPSIの役割を拡大する誓い

150カ国の公共サービス労働者2千万人を代表するグローバルユニオン・フェデレーション、国際公務労連の新リーダーに、イタリアの労働組合員、ローザ・パヴァネリ氏が選出された。パヴァネリ氏は、「PSIに新たなエネルギーを与え、正義、連帯、平等、そしてより公正でより持続可能な社会のために立ち上がること」が自分のビジョンの基盤であると述べている。

新書記長の選挙は、南アフリカのダーバンで開催中の第29回PSI世界大会で行われた(2012年11月27～30日)。選挙では1期目を終えたデンマークの労働組合員ピーター・ウォルドルフ氏が書記長としての再選を狙った。

パヴァネリ氏はイタリアの公務連盟 (Federazione Lavoratori Funzione Pubblica FP-CGIL) のリーダーであり、PSIでは欧州地域の副会長を務める。

「世界の代議員とPSI加盟組合の連帯のおかげで、共にPSIを変える可能性を共有することができる」とパヴァネリ氏。PSI加盟組合すべてに対し、今後数ヶ月数年にPSIの重要な行動プログラムを共に進めていくことを求めた。

「より公正でより持続可能な社会に向けて、公共サービスとPSIメンバーの権利、そして市民全体の権利を擁護するために団結し、戦うときがきた。力を合わせれば成功できる」と彼女は語った。

パヴァネリ氏は、組合における女性の役割を向上させることにコミットしたいと強調。女性はPSIメンバーの3分の2を占める。「加盟組合の幹部職に就く女性を増やし、より多くの女性がPSIに従事できるよう戦っていくつもりだ」と語った。

ローザ・パヴァネリ氏は1955年にイタリアのブレシアで生まれた。ミラノ国立大学では生物学の学位を取得し、1978年には、ブレシアの労働省に勤めながら労働組合活動を始める。1986年、彼女はFP-CGILの書記局メンバーとなり、自治体部門を担当。続いてヘルスケア部門を担当した。1999年にはFP-CGILロンバルディア地域の書記長となり、2002年にはFP-CGILの全国書記に選ばれた。2005年以降は欧州部門と国際部門の先頭に立つ。パヴァネリ氏は現在イタリア最大の組合連合であるFP-CGILの会長であり、CGIL運営委員会のメンバーでもある。

第29回PSI世界大会の最新ニュース(11月30日まで) :

写真:http://www.flickr.com/photos/psi_isp_iska/collections/72157632088316686/

デイリーブログ:<http://congress.world-psi.org/blog>

media release... communiqué de presse... comunicado de prensa...

国際公務労連は、世界150か国で重要な公共サービスに携わる女性と男性2000万人以上を代表する世界的労働組合連盟です。PSIは人権を擁護し、社会正義を唱道し、質の高い公共サービスの普遍的な利用を推進します。PSIは、国連システムと共に、そして、労働界、市民社会、その他組織と協力して取り組んでいます。